

地 理 歴 史

(地理総合，地理探究)

答 案 作 成 上 の 注 意

1. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入しなければいけません。
2. 地理総合，地理探究は 34 ページから 41 ページまでです。
3. 解答用紙の受験番号欄は 3 か所です。氏名を書いてはいけません。
また，※印欄には何も記入してはいけません。
4. 解答には筆記用具，消しゴム以外のものを使用してはいけません。
5. 問題冊子と使用しない解答用紙は持ち帰ってください。

問題 1 次の地形図は 1989 年に発行された「津山西部」(原寸, 一部改変)の図幅である。図をよく読んで、後の問いに答えなさい。

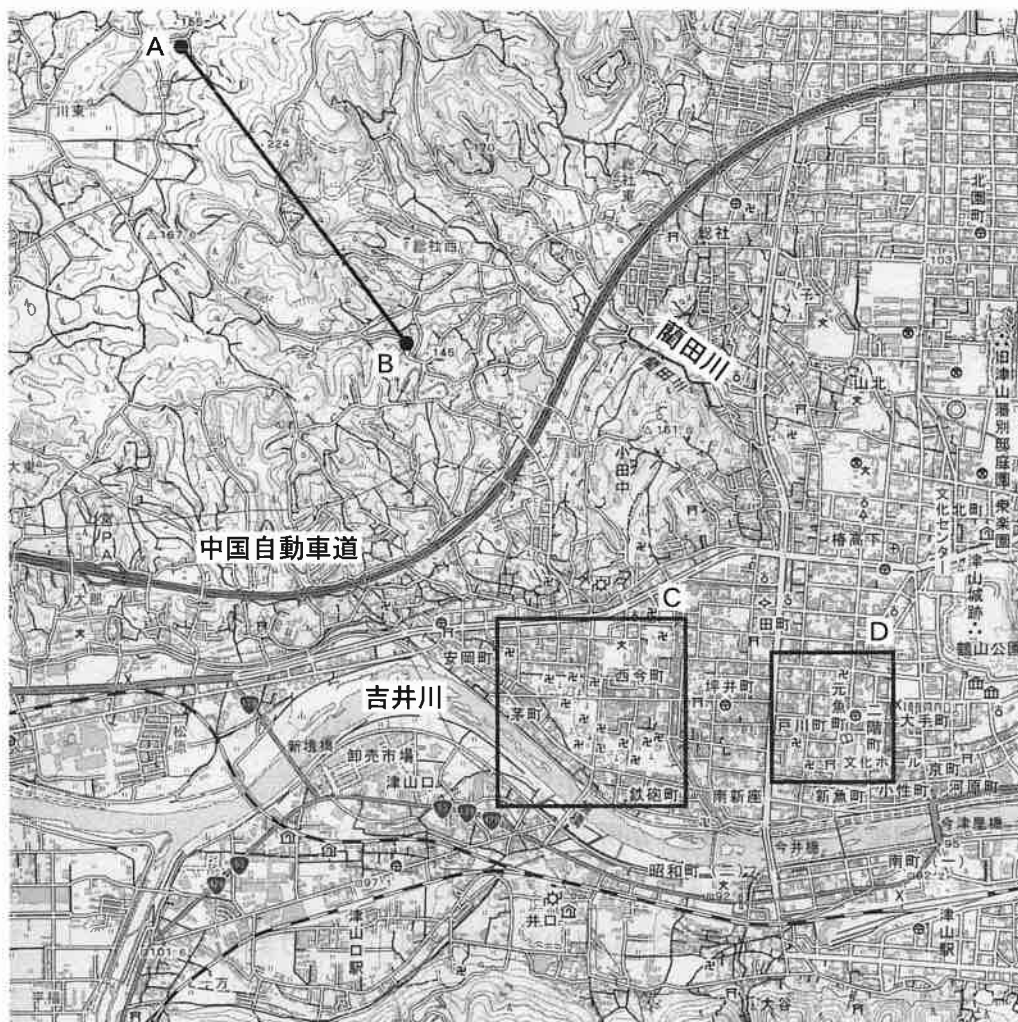
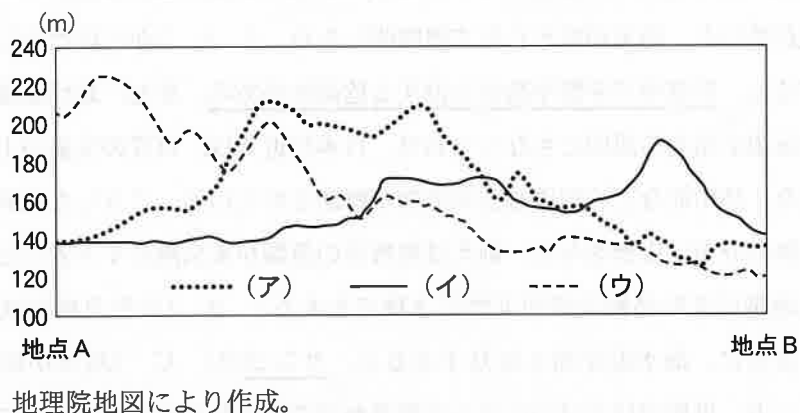


図 1

問 1 図 1 中の線分 A-B は 5 cm である。実際の距離(メートル)を求めなさい。

問 2 図 1 中の中国自動車道以北には、農業用ため池が点在している。農業用ため池と関田川との関係から津山市中心部で想定される防災対策を簡潔に立案しなさい。

問 3 図 1 中の線分 A-B の地形断面図として正しいものを、図 2 中の(ア)～(ウ)から一つ選び、記号で答えなさい。



問 4 図 1 中の範囲 C には寺院が集中している。その理由を簡潔に説明しなさい。

問 5 写真 1 は図 1 中の範囲 D 付近を撮影したものである。近年、中心商店街が直面している問題とその理由をそれぞれ簡潔に説明しなさい。



写真 1

問 6 図 1 中を東西に流れる吉井川は、かつて高瀬舟による舟運が盛んであった。現在は陸上交通に代わったが、その理由を簡潔に説明しなさい。

問題 2 次の文章と図をよく読んで、後の問いに答えなさい。

現在、国や地域の枠を超えて取り組むべき地球環境問題が存在している。地球温暖化が進むと、海水が温められて熱膨張したり、(A)がとけたりして海面が上昇すると、世界中で平野や島が水没する危険性がある。また、地球温暖化によって異常気象が増える原因にもなっており、日本付近では、真夏の気温が上昇することにより、熱中症などの健康被害の増加が懸念されている。こうした気候の変化は野生生物の分布に影響を与え、例えば熱帯系の魚類が東京湾にすみ着いたり、寒冷な高山地帯にすむ鳥類で特別天然記念物でもある(B)の生息域が減少したりする。さらに、海水温が高くなりすぎると、サンゴの(C)現象が続いて死滅する。一方、世界では干ばつによって農業ができなくなる地域があるのに対して、豪雨による水害が頻発する地域も出てきている。このように、地球温暖化はかつてないほどの気候の変化をもたらし、生態系や人間生活に重大な影響を及ぼしている。

廃棄物などによる海洋汚染も深刻である。海洋が汚染されると、富栄養化や酸素不足によって水質が変化する現象が発生する。近年はプラスチックごみによる海洋汚染が深刻化し、陸から海に排出されたプラスチックごみが、海流によって世界中に拡散している。特に、マイクロプラスチックとよばれる微小粒子は、摂食を通して体内に蓄積し、さらに(D)で広がることから、生態系への影響が懸念されている。そのため、プラスチックの使用や廃棄に対して、各国で規制が設けられるようになった。

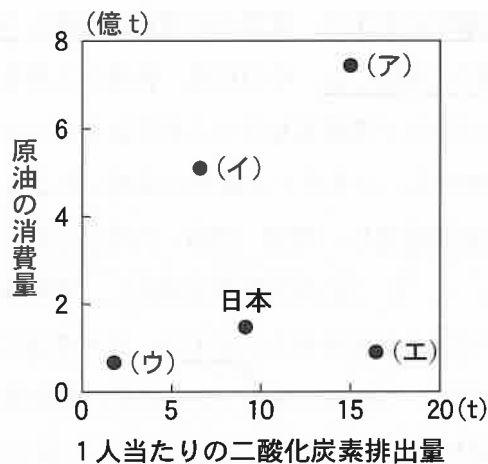
問 1 文中の(A)～(D)に該当する語句を答えなさい。

問 2 文中の下線部(1)に関連して、地球温暖化の防止に向けた国際会議の場で、1997年に京都議定書が、2015年にパリ協定がそれぞれ採択された。京都議定書とパリ協定の違いを簡潔に説明しなさい。

問 3 文中の下線部(2)に関連して、サンゴ礁が形成される条件を気候や地理的条件から簡潔に説明しなさい。

問 4 文中の下線部(3)に関連して、アフリカのサヘル地域では1970年代以降、砂漠化が急速に進んでいる。その理由を人為的要因から簡潔に説明しなさい。

問 5 文中の下線部(4)に関連して、図1は「1人当たりの二酸化炭素排出量」と「原油の消費量」を示したものであり、図1中の(ア)～(エ)は、アメリカ合衆国、インドネシア、サウジアラビア、中国のいずれかである。サウジアラビアと中国に該当するものをそれぞれ記号で答えなさい。



「1人当たりの二酸化炭素排出量」は2016年時点、
「原油の消費量」は2017年時点。
『データブック オブ・ザ・ワールド 2020年版』に
より作成。

図 1

問 6 文中の下線部(5)に関連して、海洋の富栄養化によって引き起こされる現象を何というか答えなさい。

問 7 文中の下線部(6)に関連して、マイクロプラスチックが発生する要因について簡潔に説明しなさい。

問題 3 次の文章と表をよく読んで、後の問いに答えなさい。

植民地時代、東南アジアの鉱産資源は、宗主国の富を増やすことを目的に開発されたため、自国の工業発展には結びつかなかった。⁽¹⁾ASEAN 諸国は、単一の鉱産資源や農産物の生産と輸出に依存する(A)経済が共通の課題となっていた。

第二次世界大戦後の独立以降、ASEAN 諸国は生活向上を目指して工業化政策をとった。1970 年代からは、資本と技術をもった外国企業を積極的に誘致し、関税の免除などの優遇措置が与えられる(B)を設置するなどして、輸出指向型の工業化を進めた。先進国の企業は、低賃金の豊富な労働力や安い工業用地を求めて、⁽²⁾次々と ASEAN 諸国に進出した。その結果、各国の工業化は急速に進み、現在では多くの国で輸出品の上位が機械類などの工業製品となった。

ASEAN 諸国の中でも、いち早く工業化に成功したシンガポールは、幅広い分野で積極的に工業化政策を進め、韓国・台湾・香港とともに(C)の一員に成長した。マレーシアは、(B)に外国企業を誘致し、半導体生産の集積地を作るなどして、電機・電子産業を発展させた。⁽³⁾タイは、日本をはじめとする大手自動車メーカーが相次いで進出し、ASEAN 域外への完成車の輸出を行う自動車産業の集積地となっている。ASEAN 諸国に進出した自動車メーカーの多くは ASEAN 域内で(D)体制を組み、相互に部品を供給し合うなどして生産の効率化を図っている。⁽⁴⁾

一方、1990 年代に ASEAN に加盟したベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア⁽⁵⁾では、第二次世界大戦後も各地で紛争が続き、その影響もあって工業化が遅れた。ベトナムは 1986 年から(E)と呼ばれる市場開放政策をとるようになった。その結果、日本やシンガポールなどの賃金水準の高い国から、労働集約的な工業の生産拠点が移転し、工業化が進んだ。

問 1 文中の下線部(1)に関連して、東南アジア諸国と旧宗主国の組み合わせとして正しいものを、次の(ア)～(エ)から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (ア) タイとアメリカ合衆国 | (イ) マレーシアとイギリス |
| (ウ) インドネシアとスペイン | (エ) シンガポールとフランス |

問 2 文中の(A)～(E)に該当する語句を答えなさい。

問 3 文中の下線部(2)に関連して、日本もそのほかの先進国の企業と同様に ASEAN 諸国に進出した。その結果、日本国内ではどのような影響が出たのか簡潔に説明しなさい。

問 4 文中の下線部(3)に関連して、マレーシアではプミプトラ政策を進めたが、この政策の具体的な内容と意義を簡潔に説明しなさい。

問 5 文中の下線部(4)に関連して、首都バンコクでは急速な都市化によって、さまざまな都市問題を抱えている。バンコクの都市問題とその対策を具体的に説明しなさい。

問 6 文中の下線部(5)に関連して、表 1 は主な輸出品目と輸出相手国の上位 5 位までを示したものであり、表 1 中の(ア)～(エ)は、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジアのいずれかである。ラオスとミャンマーに該当するものをそれぞれ記号で答えなさい。

表 1

(ア)				(イ)			
輸出品目	%	輸出相手国	%	輸出品目	%	輸出相手国	%
銅	25.9	中 国	36.1	衣 類	24.8	中 国	33.3
電 力	24.5	タ イ	31.3	液化天然ガス	14.5	タ イ	18.3
農産物	12.4	ベトナム	17.2	野菜と果実	7.3	日 本	8.3
衣 類	5.9	インド	2.8	米	5.5	インド	3.4
金	2.6	日 本	1.9	貴石と半貴石	5.4	香 港	3.4
輸出総額	2,340	百万ドル		輸出総額	11,820	百万ドル	

(ウ)				(エ)			
輸出品目	%	輸出相手国	%	輸出品目	%	輸出相手国	%
衣 類	66.1	アメリカ	21.3	機械類	40.2	アメリカ	19.3
履 物	7.8	イギリス	9.5	衣 類	11.6	中 国	16.5
機械類	4.8	ドイツ	9.0	履 物	7.1	日 本	7.8
自動車	3.5	日 本	8.2	魚介類	3.9	韓 国	6.9
米	3.0	カナダ	6.5	精密機械	3.4	香 港	3.5
輸出総額	8,441	百万ドル		輸出総額	176,636	百万ドル	

数値は 2018 年時点。

『データブック オブ・ザ・ワールド 2020 年版』により作成。